



創立 昭和28年1月8日

第2565回 Vol.53 No.15 2004年10月21日

TANABE

District 2640 田辺ロータークラブ



ROTARY

Club Weekly Bulletin

ローターを祝おう

100年の歩み

2004-05年度
国際ローターテーマ
グレンE.エステス・シニア
RI会長

4つのテスト (FOUR WAY TEST)

- 言行はこれに照らしてから
- (1) 真実かどうか
- (2) みんなに公平か
- (3) 好意と友情を深めるか
- (4) みんなのためになるかどうか

例会日 木曜日 12:30
 例会場 紀陽銀行三階ホール
 会長 辻 啓次郎
 幹事 植田 芳史
 会報委員長 玉井 洋司
<http://tanabe-rc.com/>

承認 昭和28年3月2日
 事務所 田辺市栄町24 〒646-0048
 紀陽銀行田辺支店内
 TEL 0739-24-2002
 FAX 0739-26-0264
 mail tanaberc@mb.aikis.or.jp



「台風23号で頑張ったザクロ」
撮影 大野理文会員

司会者
辻 啓次郎会長

ソング
手に手つないで

ゲスト

ヴィジター

本日のプログラム 10/28

「語り合おうローター」
各グループ発表

次回のプログラム 11/4

米山奨学生
王 晶晶君(中国)
(和歌山大学:海南西RC)

出席報告

	会員数	欠席者	出席者	出席率
総数	82名	27名	55名	
出席計算者	71名	20名	51名	71.83%
9月30日修正出席率 88.73% 9月平均出席率 91.20%				

メイクアップ

10/8 榎本長(三郷RC)
 10/19 玉置(田辺はまゆう)

お祝い

会員誕生日 10/19 伊賀
 10/26 廣本
 配偶者誕生日 10/21 脇村英子(孝三郎)
 結婚記念日 10/16 柴田
 10/23 山本
 10/24 福本、串上
 10/25 荷稻
 10/27 廣本

ニコニコ箱

三谷方外さん、卓話頑張って下さい。・植田英、伊賀「語り合おうローター」で21名の出席の上、ご意見有難うございました。……………渡部三谷方外さん、卓話よろしく。原稿有難うございます。……………玉井洋今日は卓話です。お手柔らかに！……………三谷方先週末遊びに来ていた母を高野山へ連れて行ったら丁度餅撒きをやっていて沢山拾ってきました。……………高橋廣湊まつり無事終了。まつりゴルフで5位に入り田上米穀店の米10kg頂きました。……………新井術後5年経ちました。一安心です。……………横田新井さん、昨夜はご苦労様でした。おかげで無事でした。……………横田

本日欠席です。すみません。……………中松

お知らせ

会長報告

- ・10月14日に渡部座長による第3回「語り合おうローター」では貴重なご意見ありがとうございました。今晚は、最終組です。
- ・本日第2回目の指名委員会が例会終了後行なわれます。
- ・8月19日の例会でお話しました田辺クラブの元奨学生:和田武郎氏(下記のプロフィール参照)より、昔お世話になったお礼にとニコニコへ100万円の寄付がありました。感謝です。有意義な使い方を検討したいと思います。

幹事報告

- ・10月23日国際ローター第1組IMが串本ロイヤルホテルにて行なわれます。
- ・第3回クラブ協議会を11月25日例会終了後に行ないます。各委員長は、ご出席をお願いします。
- ・国際ローター理事指名委員会よりゾーン3理事指名委員会が岡山県児島ローター・クラブ会員渡辺好政氏を2006-08年度RI理事として指名したことを証明する報告を提出された由、報告がありました。
- ・財団奨学生の田中京子さんより近況報告 3が届いています。
- ・近隣クラブの会報が届いています。



和田武郎氏(中辺路町近露出身)
 第3回(S32.4)田辺R.C奨学生(大学生の部)

出身校 田辺高校
 大阪大学医学部(S38年卒)
 医学博士

*現在は、東大阪にて診療所を開き
 奈良に在住

(S13.4.3生)

委員会報告

「語り合おうロータリー」第4組 笹野
・9/30より行なってきましたが本日、最終組となりました。銀ちろ駅前店にて午後6時30分より行ないます。

職業分類委員会 木村委員長
・本年度職業分類表を各自トレーに入れていきます。

プログラム

会員卓話



「仏教徒の生き方」

三谷方外 会員

今日は、仏教について少しご説明させていただきます。

まず、釈迦が説いたのは出家することによって彼岸に渡る教えです。流れの激しい大きな川を此岸（娑婆世界）から彼岸（仏の世界）へ泳いで渡ろうと言う事です。お釈迦様の活躍された所は、ガンジス川の流域です。ですから彼岸、此岸のように川のたとえ話でよく説明されています。

人間の悩みは娑婆世界、此岸では解決できません。例えば、死にたくないと考えていますが、いつまでも生きる事は出来ません。若々しくありたい、健康でありたい、病気になりたくない。これらも満たす事は出来ません。これらを解決する為には、出家をしなければならぬのです。

激流を泳いで彼岸を目指すには、財産を背負って泳ぐと重さで溺れてしまいます。妻子を抱えて泳ぐ事も不可能です。全てを捨てる必要があります。これが出家です。

このように小乗仏教では出家をし、修業して彼岸に渡った人が救われると説くのです。

それでは出家をせず修業しない者は、救われないのか？と言うと、そうではありません。しかし、いきなり、さあ渡って来なさいと言っても、お年寄りや子供には、激流をなかなか渡れるものではありません。

そこで、一部の彼岸に渡った人は彼岸からこちらを眺めて、「こちらの方が浅瀬で渡りやすいですよとか、重機を持ち出して渡りやすいように道を造ったり、橋をかけたりすれば、誰だって彼岸に渡れる」と考えました。

お釈迦様は彼岸に渡る最良の方法を具体的にお説きになっています。その第一番は布施です。

1912年ですから大正元年4月15日午前2時20分のことです。イギリスの豪華客船タイタニック号が初航海のおり、氷山に激突して遭難しました。

1,513人という大勢のと尊い命が失われた、世界

最大の海難事故でした。

記録によると、さすがに紳士の国です。救命ボートの数が足りなくて、女性や子供を優先してボートに乗せたそうです。当然の事ながら、大勢の男性が命を落としました。

さて、仏教的にはここで本当に有り難う御座いました。と心からのお礼を言うのは、ボートに乗せてもらった女性や子供ではありません。波間に沈んで死んでいった紳士たちなのです。なぜかと言うと紳士たちは、彼岸に行くために自らの命を布施したのです。

すなわち、布施というものは、金持ちが貧乏人に恵んでやる行為であってはならない。「俺がお前に恵んでやるのだぞ。お前は俺に感謝しろ」という気持ちがあったならば、その施しは布施にはならない。布施においては布施を受けた者はお礼を言う義務はない。お礼を言うべきは布施をしたほうである。権利と義務があべこべになっていると感じますが、仏教ではこれが正しいのです。

このように布施というものを理解しますと、例えば狭い道で車がすれ違えないとする。私が待って相手を先に通してあげた。このとき「有り難う御座います」と頭を下げるのはどちらでしょうか？

当然、待った私が頭を下げます。先に通してもらった相手の人は、そのまま知らん顔をして通ればいい。私も通れる道、相手も通れる道、ここで相手に道を布施出来たのは私ですから。

電車の中で、私がお年よりに席を譲りました。このとき、お礼を言うのは、譲ってもらったお年よりではなく、席をお布施できた私です。

タイの国は毎朝お坊さんが托鉢をしています。信者の方は食物などを持鉢の中に布施します。さてここで、頭を下げているのは、お坊さんでしょうか？信者さんでしょうか？

正解は信者さんです。

私たちは何も持たずにこの世に生まれて来ました。そして、また何も持たずに死んでいきます。一枚の紙、わずかなお金といえども元来自分の物と言えるものは何も有りません。これは私のものだ、人の為には使わないぞ。と思った時には仏の教えでは、物を盗んだという事になります。それではどうすれば良いかということ、「あまねく衆生に布施すべし」です。

我々それぞれの職場に於いて、また各々の持ち場に於いて布施をする事が職業奉仕なのかな？と自分勝手に思っています。また、それこそが本物の宗教ではないかと、自分なりに理解しています。お釈迦様はこのような社会を夢見て目指されたのだらう。と私は確信しています。

最後にもう一つ、布施という言葉はサンスクリット語で[ダーナ]といいます。この言葉の音写語が旦那です。つまり旦那さんは、布施をする人なのです。どうぞ旦那さん方、精いっぱい布施をして下さい。

